

# ヒアリング結果 報 告 書

平成 3 0 年 2 月 9 日

情報システム作業班

## 1. はじめに

厚生労働省では、(公社)日本臓器移植ネットワーク(JOT)におけるあっせん誤りの再発防止のため、移植あっせんに関わるシステムについて専門的な観点から検討を行うことを目的としたシステム作業班を設置し、平成29年10月3日、第一回システム作業班が開催された。

本作業班ではJOTにおいて実施された腎臓レシピエント選択基準改正におけるシステム改修について検討を行い、併せて、詳細な受け入れテストの結果や要件定義について検証するため、平成29年11月から12月にかけて各班員がJOTに直接赴き、ヒアリングを行ったので、その結果を報告する。

(公社)日本臓器移植ネットワーク(JOT)においては、本報告書を踏まえ、今後、対応を検討されたい。

## 2. ヒアリング結果及び今後の対応についての提案

### (1) ITガバナンスの強化について

平成29年7月より最高情報責任者(CIO)の配置及び事業統括室(PMO)の設置が行われ、組織構成的にはITガバナンスの強化が図られている。また、CIO導入により、情報システム部門において、従来実現されていなかった管理・推進機能と運用機能の人的分離が一定程度可能となった。さらに、PMOを設置したことにより、情報システム部門の管理と運用の連携を保ちながら迅速な議論と意思決定を可能とする体制構築が実現された。すなわち、ITガバナンスに関しては、従来と比較すると、外形的には強化されていることが確認できた。しかしながら実質的に十分機能しているかの判断は、今後半年ほどの期間を経た時点で、それまでの活動記録と成果実績を検証することにより初めて評価できるため、平成30年度以降に再評価すべきと判断する。

一方で情報セキュリティリスクの管理については、平成29年度の情報セキュリティマネジメント計画を文書化したことにより、計画的な強化が意図されていると判断できる。しかしながら委託先やシステム利用者に対する情報セキュリティ対策の周知は、現時点では未実施となっていることから、委託先やシステム利用者(移植施設、検査施設)に対して情報セキュリティ対策に対する周知を早急かつ十分に行うことが必要と考える。

### (2) EVASに関する検証

#### 1) 待機期間について

各臓器の待機期間について、旧システムでは日数の差により算出していたが、当初設計されたE V A Sでは日数の差に加え時間差を加味した計算を行っていることが報告された。今後、臓器移植が増加することを想定すると、同じ待機期間のレシピエントが複数出現する状況は考えられるが、現在の待機期間算出ルールでは、日数の差で優先順位を決定することとしているため、従来通り、日数の差により待機期間を算出するようシステム改修を行うことが報告された。今後は、現在採用されているあっせん順位算出基準を明文化し、関係者と協議のうえ、現在のシステムで採用している基準の是非について検討を行うことを推奨する。

また、システム改修時に行うテストについては、通常実施前に想定するテスト結果一覧が作られるべきであり、これと併せてテスト結果の確認内容が記載されるべきであるが、これらが作成されていないことが確認された。今後システム改修の際には、テスト結果の確認内容の記載を必ず実施すべきと考える。

## 2) 新規の患者登録処理について

現在のレシピエントデータベースの登録・検索システムでは、あっせん事例が生じレシピエント検索が行われているのと同時に、新規の患者登録を行った場合、処理途中でレシピエントに関するデータが変更されることから、誤ったあっせんに繋がる可能性があり、今後、システム改修を検討すべきと考える。また、登録処理を手作業で行っているため、医療機関から届いた申請が反映されるまでに時間がかかることがある点を医療機関に通知しておくべきである。

## 3) レシピエント選択基準のシステム実装について

レシピエント選択基準のシステム実装において、あっせんの対象とならない人を除外するために、レシピエント選択基準にないJOT独自ポイントを導入するなど、非常に変則的で間違いに繋がりがやすいものがある。

今後のシステム改修に際しては、厚生労働省に対してシステム化を前提に選択基準の改正を行うよう要望し、レシピエント選択基準とJOTの構築したシステムのプログラムが一致しているか、厚生労働省及び関係学会の確認をとることを推奨する。

## (3) 腎臓レシピエント選択基準改正に伴うシステム改修について

システム改修を行う際のテストパターンについて、JOTはダミーや過去のデータを与えることで行っているが、待機期間の取り扱いは変更

されているにも関わらず、その検証が行われていないこと、また年齢については4パターンで検証されているが、対象臓器の要件に応じたテストパターンを作っているとは言い難いなど、テストデータの合理性が低い。以上から、腎臓レシピエント選択基準改正を実施する際には、現在実施しているエクセルでの斡旋順位検証を引き続き並行して行って慎重にあっせん順位付けを行うとともに、可能な限り早く、新たに適切なテストパターンを作成し、待機期間、臓器の要件に応じたパターンを加味したテストを実施することを求める。

#### (4) 中長期的課題

入金タイムラグ等、業務上の扱いに関する留意点をまとめ見える化し、人為的ミスを防止するためのシステム改善、さらにはあっせん件数増加に伴う負荷増に対応するためのシステム改善についても、考慮すべきと考える。

### 3. おわりに

今回各班員がJOTで聞き取り調査を行った結果、外形的な組織体制の改善が認められたことは評価に値する一方で、細部においては、まだまだ稀薄な部分もある。これまで手作業の延長であっせんを行ってきたこと、組織体制が再構築されるまでの間、システム担当者が一名しかいなかったことから、約半年の間にすべての問題を解決することは困難であったと予想されるが、あっせん事例に途切れはないこと、医学的社会的背景からレシピエントの選択基準変更は今後も恒常的に継続することから、JOTにおいては、更なるシステム環境の改善に取り組むことを望む。